イメージの力

河北秀也の iichiko design

The Power of Images : KAWAKITA HIDEYA's iichiko Designs

大分県は自分にとってふるさとのようなところです

宇佐市の酒造メーカー、三和酒類のロングセラー商品「いいちこ」。そのポスターやCMを手掛けてきたのがアートディレクターの河北秀也さんです。2023年2月にはじまる展示にあわせ、デザイナーを志したきっかけや「いいちこ」との関係を伺いました。

——大分県宇佐市の酒造メーカー、三和酒類が発売する「いいちこ」の広告を長年手がけています。

年の離れた姉がいるのですが、私が小学2年生の時に結婚して大分で暮らすようになりました。それで春休みや夏休みは母と一緒に、当時住んでいた福岡県久留米市から大分へ行くのが習慣になったんです。義兄は日本酒の造り酒屋に勤めていて、営業で大分県中を車で回っていました。その時によく助手席に乗せてもらっていたので、大分は半分ふるさとのようなところです。

——その後、高校生の時には大分県立宇佐高校に転校されました。

進路を考えた時にデザイナーになりたいと思い、大学を調べたところ東京藝術大学の存在を知りました。先生に相談すると美術部がある高校への転校を勧められ、宇佐高校に。高校時代は絵ばかり描いていましたね。

当時はデザイナーか、ジャーナリストか、レーサーになりたかったんです。この3つはどれも同じような職業だと考えていたからです。ジャーナリストは世の中をちゃんと見て、調べて、記事にする。レーサーは道を高速で正確に走るため、小石一つ見逃さない。私がやりたいと思っていたコミュニケーションデザイナーも、世の中を冷静に見るところからはじめる職業。そんな仕事に就きたいと思いました。

大学では、サクマ製菓でアルバイトをしました。その時に手がけたのがキャンデー「いちごみるく」のパッケージデザインです。

——大学の卒業翌年では、東京の地下鉄路線図をデザインして営団地下鉄に持っていったそうですね。

僕は小学2年生の頃には鹿児島から東京までの駅名を全部言うことができました。それぐらいの鉄道ファンだったのに、当時の地下鉄の路線図はあまりに見にくくて理解できなかったんですよ。それなら、僕がデザインするしかないなと。東京藝大の目の前には営団地下鉄の本社があったので、「交通デザイン研究会」というのを立ち上げて、自分がデザインしたものを持ち込みました。卒業制作として制作したのですが間に合わなかったので、卒業翌年のことです。

——「いいちこ」の広告を手掛けたのはどのような経緯だったのでしょう?

三和酒類はもともと日本酒を造っていて、義兄と姉、そして宇佐高校の美術部の先輩が働いていたので付き合いがありました。1979年に発売開始のいいちこは、最初は九州でじっくり売っていましたが、次第に他の地域からも注文が来るようになりました。その頃、「広告を作りたい」と僕のところに連絡があったんです。僕が旧営団地下鉄のマナーポスターシリーズを手がけていた頃のことでした。今から40年も前のことですね。

まずは東京の地下鉄にポスターを貼り出しました。最初は「1回くらいやってみようか」という話でしたが、三和酒類からは2ヶ月後に「もう1回やりたい」さらに2ヶ月後にも「またやりたい」と連絡があった。それで、「じゃあ毎月やりましょう」ということになったんです。その後、1986年からはテレビCMも制作するようになりました。

通常、広告は瞬間風速を狙って一度に大々的に展開しますが、いいちこにはそこまでの予算はありません。なので同じイメージを長く続けて、何年か先に効果が出るようにしようと考えました。当時の広告の手法とはまったく違っていたので業界からは奇妙がられましたが、「今に見てろよ」と思っていましたね。

——あの透明感のあるビジュアルはどのように生まれたのでしょう。

これがワインのボトルなら自然ですが、いいちこはボトルに「下町のナポレオン」と大きく書かれている焼酎。そのミスマッチをあえて狙いました。そして、いわゆる広告商品のように商品を大きく写すのもやめました。かえって話題を呼び、女子高生が「どこにボトルがあるか探すのが楽しみ」と噂に。口コミ、噂話が一番強いんですよね。そうしたこれまでにないやり方が評判になり、いいちこの売り上げは当時200倍にまで成長しました。

三和酒類には宣伝部などもないし、作る時に会議をするわけでもなく、僕が自分ですべて制作しています。だから三和酒類の人はポスターもCMも、貼り出されたり放送されたりした時にはじめて見るんですよ。

——河北さんへの信頼があるからこそですね。デザインの際に大切にしていることは。

いいちこの広告はマーケティングとしてではなく、お酒を飲む時の気持ちを思い浮かべながら作っています。

一部の商品ではボトルやパッケージのデザインも担当しているのですが、僕が手がけた中にはラベルをなくしたものがあります。誰かと向かい合ってお酒を飲む時、ラベルがあると一方が表、もう一方が裏になりますよね。それが嫌だったし、原材料の情報などもお酒を楽しむ時間には必要ないはず。そんなふうに、飲む人のことを考えながら作るようにしています。

——最後に、大分の人にメッセージをお願いします。

このポスターだけでも500枚近く制作していて、こんなにも長く関わることになるとは思いませんでした。大分県との関わりができたのはたまたまでしたし、いいちこの仕事を引き受けたのもたまたま。それがここまでの付き合いになるのだから、運命のようなものなのだと思っています。

ポスター1998年3月

ポスター 1994年3月

DATA

イメージの力
河北秀也のiichiko design

2023年2/11(土・祝)~**3/29**(水)
▶大分県立美術館 1階 展示室A

時10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで) ¥一般800(600)円、大学・高校生500(300)円※( )内は前売および有料入場20名以上の団体料金※中学生以下は無料 問大分県立美術館 Tel:097-533-4500

関連イベント

講演会「イメージの力 iichiko designが目指したもの」
■ 講師:河北秀也(アートディレクター/東京藝術大学名誉教授)
2023年2/11(土・祝)14:00-15:30 ▶大分県立美術館 1階 アトリウム
参加費:無料(要事前申込)/定員:150名
申込み:当館HPの申込みフォームからお申込みください。
定員に達し次第、締切りとさせていただきます。

ギャラリートーク
2023年2/25(土)・**3/18**(土)各日14:00-15:00 ※予約不要・要展覧会観覧券

三和酒類 特別ブース
2023年3/11(土)10:00-17:00 ▶大分県立美術館 1階 アトリウム
iichikoをはじめとする商品の試飲や、アルコール体質の理解を深めるブースなどを出展
問(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団広報・連携推進課 tel.097-533-4007

iichiko presents ビリー・バンバン コンサート
2023年3/11(土)14:00開演 ▶iichiko音の泉ホール
歴代「iichiko」のCMを鮮やかに彩った楽曲を中心にお届けします。
問 iichiko総合文化センター企画普及課 tel.097-533-4004